

ゆうメール

NPO 法人マザーズサポーター協会では、納得のいく「今」を生きるために、お役に立つ情報を発信しています。

新年、明けましておめでとうございます！



今年も変わらずマザーズサポーター協会は、パワフルに活動してまいります、よろしくお願ひ致します！

さて、今回は子育て真っ最中シングルマザーの私自身が、成長したなあと思えた「ある出来事」についてお話をさせていただきますと思います。

苦い経験は成長の種

娘が小学2年生の時の出来事です。

1 学期の個人懇談の席で、担任の先生から「実は最近気になることがあります…。クラスの子の消しゴムや筆箱が無くなることもあり、いつもそれを見つけて持ってきてくれるのがA子ちゃんなんです。そのような出来事が3回ほどあり不思議に思っていたんですが、移動教室のあった日、皆が移動したあとにA子ちゃんが教室に出入りしていたところを見かけた先生がいたんです。友達のを実際に隠す所を見たわけではないので、A子ちゃんがしたことかどうか確実な事はわからないのですが…。本人に話を聞いてみたんです。ですが、涙を見せるだけで詳細についてはわからなかったんです。ご自宅で、お話を聞いてみていただけませんか」という内容でした。

私は、先生から話を聞いている間「これ、うちの子の話しなんでしょうけど…何かの間違いやと思う。友達の物が欲しかったんだろうか、物で不自由な思いをさせた事は無いはずやけど…盗ってる訳ではなく返してるし、一体何がした

かったのか、注目を浴びたかったんだろうか」といろいろなことを考えました。学校からの帰路では「我が子が人の物を盗るなんて…考えられない、あり得ない、信じられない、信じたくない」といった否認にはじまり「一体、何を考えてるんや、アホちゃうか！アンタのした事は泥棒と同じやろ！そんな事教えたことないで。情けない。保育園の子でもわかることやろ！」という怒り、「私が充分な関わりの時間を持ってあげられていないから、関心を引くためにしたんやろうか…やっぱりシングルマザーやからアカンのかなあ」という自責の念が、一頻り頭の中をグルグルと駆け巡りました。頭ごなしに怒鳴りつければ、一時的にはスッキリするかもしれないけど、他人に迷惑をかけるだけでなく、罪にもなり兼ねない今回の出来事、娘が事の重大さを理解し行動を改められないと意味がないので、ここはグッと感情を抑え真剣に向き合う覚悟を決めました。

この日の晩、娘に話を聞いてみました。

「お友達の文房具がなくなることが何回かあって、その無くなった物をいつもA子が見つけてくるって聞いてん。でも、毎回毎回見つけれるっておかしいやん、友達の物〇〇が隠したん？」と率直に聞きました。娘はモジモジしてはつきりと返事をしませんでした。「どうしてママがこの話を聞いているかわかる？とっても大事なことから、ちゃんと話したいねん」と目を見て伝えました。

すると娘の目からボロッと涙が溢れました。この涙が答えなんだと思ったのですが、小学2年生の子どもにわかるように、きちんと言語で伝えなければと思い「どうして、そんな事をしたの？」と聞くと、泣きながら友達との出来事を語り始めました。友達との関わりにおいて嫌な事があり、友達を困らせたいと思ったようです。

私からすれば、理由はどうあれ娘の行為に正当な理由はありません。駄目なものは駄目と娘自身に理解して貰う必要(コミュニケーションの意図)があったので、

〒654-0067

神戸市須磨区離宮西町 1-2-20-104

NPO 法人マザーズサポーター協会

たとえ間違っている事であっても、その時の娘にとっては**最善の選択**だったのだろうと捉え、まずは**否定せず**に話を聴き続けました。話が一通り終わって「なるほど、そうだったんやね」と**気持ちを受けとめ**ました。

その後、“友達は困っていなかったのか、大切にしているものが無くなって辛かったんじゃないか、無くなった物を見つけたふりして渡した時に友達はありがとうって言ったけど…それを聞いて A 子はどんな気持ちだったの？もし、無くなった物を友達が盗って、隠してたと知ったらどう思うだろうか…”など、一つずつ聞いてみました。これに対する返答は、自分がした事は悪い事だと認識していると思える内容でした。

娘が3歳の時の話ですが、私が抜歯後痛で苦しんでいた時に「ママ、大丈夫？A 子がついてるからね。ママ、大丈夫やで」とつたない言葉で3歳ながらに私を励ましてくれたことがありました。

娘は覚えていませんでしたが、とても嬉しかったこと、私にとって大切な娘であることなど**自己の存在価値**が認識できるように伝えました。そして私はどんな時でも味方であること、娘にとって**安全な場所**であることを伝えました。

その上で、“人の物に手をかけてしまう事は泥棒と同じで、誰からも信じてもらえなくなる。次に同じような事が起こったら、また A 子がしたんじゃないかと思われてしまうかもしれない、友達にしてしまった事は消えない。先生もビックリしただろうし、これからの A 子を見てもらうしかない”ことを伝えると娘は力強く頷きました。私の覚悟が通じたと確信できる瞬間でした。

最初は何でこんな事…できれば経験したくなかったとクヨクヨ思っていました。今までにない事を経験し、経験値が増えてたくましくなった、これは**学びの種**で私たち親子の成長の糧になるとポジティブに思えるようになりました。自立型支援方法や叱り方を学んだお陰だと強く思えた出来事でした。

(文責：森田智子)

『自立』を促すための 《自立型支援方法》

1. 私は「人はいつも最善を選択している」という前提で人と関り続ける。
2. 私は自分の思い込みを一旦はずし、そのままの相手をしっかり受け止める。
3. 私は相手が尊重されていると思う聴き方をする。
4. 私は相手の中の答えを、効果的な質問で引き出す。
5. 私は評価的な表現でない言葉で相手を承認、認知する。
6. 私はコミュニケーションの意図について、いつも意識を向ける。
7. 私は自分の成功体験、情報を押し付けにならないように提案する。
8. 私は「他人の能力、可能性は決められない」ことを知っている。
9. 私は過去と他人は変えられない、人はみな違う（人は見たいようにみるし聞きたいように聞く）ことを知っている。
10. 私は人間関係を破壊する7つの習慣を使わないように意識する。
①批判する ②責める ③がみがみ言う ④文句、苦情を言う⑤罰する
⑥脅す ⑦コントロールするために褒美でつる
11. 私は信頼関係を構築するために、いつも安心感のある安全な場を作り出す。
12. 私は相手を常に勇気付け、責任を取る権利を奪わない。
13. 私は失敗したと感ずることも、常に学びの種に変える。
14. 私は、いつもどのような時も、自分が世の中に必要な存在であることを知っています。

「NPO法人マザーズサポーター協会 ニュースレター 第36号」をお読みいただきありがとうございます。過去に情報提供のご希望があったみなさまに、送付させていただいています。

今後も更に内容を充実させ、育てる側に役に立つ「自立型支援方法」の情報やイベントのご案内などを発信させていただきます。 NPO 法人マザーズサポーター協会 <http://m-supporter.com> fax:078-731-0615

